

令和7年度 兵庫県農業気象技術情報第5号（9月情報）について

1 気象経過・予報から想定される栽培上の留意点と対応策

作物	地域	栽培上の留意点	対 応 策
共通	全県共通	1 栽培管理等 台風シーズンに入るので、気象情報をチェックして、早めに台風に対する備えを行う。 各作物の事前及び事後対策は、令和7年7月18日付け農園第1287号「台風襲来に対する農作物等の備えと事後対策について」(https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/documents/typhoon07.pdf)を参考にする。	
水稲	全県共通	1 生育 県北部では、「コシヒカリ」の出穂期が平年よりも3日程度早まっており、登熟期間中かなりの高温で経過していることから、成熟期が早まる見込みである。 県南部の出穂期について、極早生品種の「キヌヒカリ」は平年より2日早く、「どんとこい」は3日早く、中生品種の「きぬむすめ」は平年並み、「ヒノヒカリ」は1日早かった。晩生品種の「山田錦」は平年並であった。穂数は平年に比べ、「キヌヒカリ」「どんとこい」、「ヒノヒカリ」「きぬむすめ」は多く、「山田錦」はほぼ同じであった。生育期間中、かなりの高温であったことから極早生品種では成熟期が早まる見込みである。 2 栽培管理等 落水まではできるだけ飽水管理に努める。水が少ない場合は走り水でも良い。ほ場の乾燥状況に注意して、収穫作業に支障のない限り、落水時期は刈取7日前を目安とする。 適期収穫を行う。刈取時期の目安は、稔実もみの85%（山田錦は90%）が黄化したときである。特に極早生品種は胴割れ防止のため、玄米水分の低下に留意し、刈り遅れに注意する。黄化もみ率は正常穂で判定すること。 乾燥作業前は必ず水分チェックを行い、急激な乾燥は避ける。外気温が高いときに乾燥設定温度が低いと、乾燥時間が長引いて、品質が低下することがあるので注意する。	
		3 病害虫 (1) 穂いもちの発生予想は平年並となっており、谷間や山陰など日陰になりやすいほ場では注意が必要である。 (2) 紋枯病は平年並の発生である。気象条件により、急激に病勢進展する可能性があり、注意が必要である。向こう1か月の気温は高く、降水量は少ない予想となっており、ほ場によっては多発する場合もあると考えられる。	3 病害虫 (1) ほ場をよく見回り、いもち病の発生状況を確認する。既に葉いもち病斑がある場合は、防除対策を実施する。薬剤は「病害虫・雑草防除指導指針」を参考に、適正に散布する。 (2) 紋枯病の発生程度はほ場間差が大きいので、ほ場をよく見回り、適宜農薬による防除を行う。また、多発ほ場では次作で紋枯病に適用のある箱粒剤の利用を検討する。

水稲 続き	全 県 共 通	(3) ごま葉枯病の発生は平年よりやや少ないが、発生株率の高い圃場が一部確認されている。 (4) もみ枯細菌病の発生は平年よりやや多い。 (5) 大型斑点米カメムシ（イネカメムシ、ミナミアオカメムシ、クモヘリカメムシなど）について晩生品種は場内での発生を確認している。 (6) コブノメイガは平年並の発生ではあるが、地域、品種によっては被害株が散見される。	(3) ごま葉枯病の対策について、詳細は7月29日発表の令和7年度病害虫発生予察技術情報第1号（https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/1394）を参照する。 (4) もみ枯細菌病は種子伝染性病害であることから、発病株より自家採種しない。 (5) イネカメムシの対策については出穂期と穂揃期に防除を行う。他の斑点米カメムシ類の防除は、穂揃期に行う。基幹防除後に斑点米カメムシ類の発生が確認された場合は、臨機防除を実施する。また、ヒエやホタルイの穂が発生源となるので、これらの雑草が多い場合は防除を徹底する。詳細は、7月17日発表の令和7年度病害虫発生予察注意報第1号（https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/1384）を参照する。 (6) 被害が著しい場合は「兵庫県総合防除計画」を参考に防除を行う。薬剤は「病害虫・雑草防除指導指針」を参考に、適正に散布する。
大豆	全 県 共 通	1 生育 開花期は平年よりもやや早い～平年並である。降雨量に偏りがあり、気温もかなり高いことから、地域や圃場によって生育量が大きくばらついている。かん水可能な圃場の生育は旺盛であるが、土壌水分が不足しているところほど、草姿が小ぶりになっている。 2 栽培管理 ほ場の排水を良好に保ちながら、土壌が乾燥する前に、畝間かん水等により土壌水分の変動が小さくなるように管理して、莢伸長期から子実肥大期の莢や子実の生育が順調に進むよう努める。 3 病害虫 (1) 立枯性病害（茎疫病、黒根腐病、白絹病）の発生は8月下旬の調査では平年並の発生である。今後の1か月予報では気温は高く、降水量は少ないと予想されているが、ゲリラ豪雨などによるほ場の滞水によって発生が助長される場合があり、注意が必要である。 (2) ホソヘリカメムシなど吸実性カメムシ類の発生は平年よりやや多い。	3 病害虫 (1) ほ場の排水対策を行い、発病しにくい環境を作る。畝間かん水を行う場合は、停滞水とならないように排水対策等のほ場管理に努める。 (2) 適期防除に努める。カメムシ類の防除適期は着莢初期～子実肥大期である。

大豆 続き	全 県 共 通	(3) 大豆でのハスモンヨトウはやや多く、フェロモントラップでの誘殺もやや多く推移している。今後、気温が高いと予想されているので、注意が必要である。 (4) ハダニ類は8月下旬の調査において一部地域で平年を上回る発生がみられている。気温は平年より高いと予想されており、注意が必要である。	(3) 薬剤がかかりにくい下位葉で幼虫の発生を確認しているため、ほ場を丁寧に観察し、若齢幼虫の集団を葉上で見つけたら、直ちに捕殺する。詳細は9月11日発表の令和7年度病害虫発生予察注意報第4号 (https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/1457) を参照する。 (4) 葉裏をよく観察し、ハダニの発生を確認する。薬剤散布を行う場合は、薬剤が葉裏に十分かかるように行う。
キャベツ	全 県 共 通	1 栽培管理 (1) 近年、ゲリラ豪雨や台風の発生が多く、降雨に伴う作業の遅れや畝立て時の碎土不良が懸念される。 (2) 定植後に降雨がない場合は、苗の活着不良が懸念される。 (3) 追肥作業が遅れないように注意する。 2 病害虫 (1) ハイマダラノメイガの発生は多く、加西市におけるクレオメ（誘致植物）の調査ではやや多く推移している。今後の気象は高温が予想され、本種の増殖に好適であるため、今後栽培される野菜類（アブラナ科）では、被害の発生が予想される。 (2) フェロモントラップへのハスモンヨトウの誘殺数は平年よりやや多い。今後の1か月予報によると気温は高いと予想されており、本種の増殖に好適な条件が続き、発生が多くなると考えられる。	1 栽培管理 (1) ほ場内外の排水性を良好に保ち、特に大雨が予想される場合には排水溝をさらえておく。また降雨による畝の崩れや落水口への連結不良に注意し、冠水時には早期の排水に努める。 (2) 定植後は、かん水チューブ等で十分かん水し、苗の活着と初期生育を促す。土壌が乾燥している時の中耕は浅めに行う。 (3) 条間の追肥は、葉が繁茂しないうちに計画的に早めの追肥に努める。 2 病害虫 (1) キャベツなどアブラナ科野菜の育苗期および定植直後の加害は被害が大きいので、不織布や寒冷紗などによりハイマダラノメイガの飛来を避けるとともに、定植前後に予防的防除を行う。薬剤は「病害虫・雑草防除指導指針」を参考に、適切に使用する。詳細は、7月24日発表の令和7年度病害虫発生予察注意報第2号 (https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/1390) を参照する。 (2) ほ場をよく観察し、若齢幼虫の集団を葉上で見つけたら、直ちに捕殺する。薬剤は「病害虫・雑草防除指導指針」を参考に、適切に使用する。詳細は9月11日発表の令和7年度病害虫発生予察注意報第4号 (https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/1457) を参照する。

キャベツ 続き	全県共通	(3) シロイチモジヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、平年より多い状態で推移している。今後、気温は高いと予想され、本種の増殖に好適な条件が続くと考えられる。生態的に今後密度増加期を迎えることから、発生が多くなると予想され、注意が必要である。	(3) ほ場をよく観察し、若齢幼虫の集団を葉上で見つけたら、直ちに捕殺する。本種は茎葉の柔らかい部分を好んで食害する性質があり、生育初期の被害には特に注意する。薬剤は「病害虫・雑草防除指導指針」を参考に、適切に使用する。詳細は8月7日発表の令和7年度病害虫発生予察注意報第3号 (https://bo.jo.hyogo-nourinsuisa.ngc.jp/archives/1426) を参照する。									
	果樹 全県共通	1 生育 (1) 高温乾燥による果実や根、葉の傷みに注意する。以降の気象状況に留意し、各果樹の生育ステージに適した土壌水分を維持する。 (2) 高温により成熟期が早まる可能性がある。また、果実の成熟は、樹種や品種、園地、樹の状態等によってバラツキがあるので、適期収穫に努める。 樹種別の生育状況（8月下旬時点） <table><tr><td>クリ</td><td>生育の進捗や穂の肥大は平年並みで推移している。着穂量は「丹沢」「銀寄」「筑波」でいずれもやや多い。</td></tr><tr><td>ブドウ</td><td>成熟期はほぼ平年並み。果粒肥大・着色・食味いずれも良好。</td></tr><tr><td>ナシ（青ナシ）</td><td>成熟期は平年に比べ2日早く、前年に比べ1日早い。果実肥大は平年並み～やや小玉。</td></tr><tr><td>イチジク</td><td>果実の収穫開始は平年並み。着色がよく糖度も高いが、降雨量が少ないことから果実は小玉傾向である。</td></tr><tr><td>温州ミカン</td><td>着果は早生・普通種で全般に少なく、極早生品種は多い傾向である。果実の肥大は平年並みである。</td></tr></table> 調査地点：クリ、ブドウ、イチジクは加西市、ナシは但馬地域、温州ミカンは南あわじ市	クリ	生育の進捗や穂の肥大は平年並みで推移している。着穂量は「丹沢」「銀寄」「筑波」でいずれもやや多い。	ブドウ	成熟期はほぼ平年並み。果粒肥大・着色・食味いずれも良好。	ナシ（青ナシ）	成熟期は平年に比べ2日早く、前年に比べ1日早い。果実肥大は平年並み～やや小玉。	イチジク	果実の収穫開始は平年並み。着色がよく糖度も高いが、降雨量が少ないことから果実は小玉傾向である。	温州ミカン	着果は早生・普通種で全般に少なく、極早生品種は多い傾向である。果実の肥大は平年並みである。
クリ	生育の進捗や穂の肥大は平年並みで推移している。着穂量は「丹沢」「銀寄」「筑波」でいずれもやや多い。											
ブドウ	成熟期はほぼ平年並み。果粒肥大・着色・食味いずれも良好。											
ナシ（青ナシ）	成熟期は平年に比べ2日早く、前年に比べ1日早い。果実肥大は平年並み～やや小玉。											
イチジク	果実の収穫開始は平年並み。着色がよく糖度も高いが、降雨量が少ないことから果実は小玉傾向である。											
温州ミカン	着果は早生・普通種で全般に少なく、極早生品種は多い傾向である。果実の肥大は平年並みである。											
		2 病害虫 (1) 高温乾燥の影響を受けて、ハダニ類の発生がやや多い。今後、秋の長雨により、イチジクの腐敗果や疫病等病害の発生が懸念される。 (2) 8月下旬におけるナシ黒斑病の発生は平年よりやや少ない。	2 病害虫 (1) 病害の発生に注意し、適切な防除に努める。イチジクは腐敗果を早めに処分し、病菌を媒介するショウジョウバエ類の発生を防ぐ。前年の秋以降病害が多発した園では、果実や葉の観察を行い、必要に応じて臨機防除を行う。 (2) 発生に注意し、適切に薬剤防除を行い、発病が多い場合は必要に応じて臨機防除を行う。薬剤は、「病害虫・雑草防除指導指針」を参考に、適切に散布する。来年の発生予防のため、病芽、病落葉の除去、枝病斑の封じ込め等、越冬病原菌対策を行う。									

果樹 樹 続 き	全 県 共 通	(3) 果樹カメムシ類の発生は平年並である。次世代成虫の出現期を迎えていることから、ナシ、カキ、ブドウ、カンキツ等の果実への被害の発生に注意が必要である。	(3) 果樹園への飛来量や飛来時期は、周辺環境の影響を大きく受けるため、地域や園地によって異なる。各園地で見回りを実施し、発生動向に注意し、適切な防除に努める。薬剤は、「病虫害・雑草防除指導指針」を参考に、選定する。
-------------------	------------------	---	--

◎水稲・大豆の栽培については「稲・麦・大豆作等指導指針」を、防除については「病虫害発生予察情報」及び「病虫害・雑草防除指導指針」を参考にすること。

※本情報は、9月8日時点のデータを元に作成しています。

2 気象予報
(1) 近畿地方 1 か月予報

近畿地方 1 か月予報 (09/06~10/05)			
2025年09月04日14時30分 大阪管区気象台 発表			
特に注意を要する事項		向こう1 か月は気温の高い状態が続くでしょう。期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。	
向こう1 か月 09/06~10/05	天候	天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。	
	気温	平均気温は、高い確率8 0 %です。	
	降水量	降水量は、少ない確率5 0 %です。	
	日照時間	日照時間は、多い確率6 0 %です。	
1 週目 09/06~09/12	気温	1 週目は、高い確率8 0 %です。	
2 週目 09/13~09/19	気温	2 週目は、高い確率8 0 %です。	
3 ~ 4 週目 09/20~10/03	気温	3 ~ 4 週目は、高い確率7 0 %です。	

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	近畿地方	向こう1 か月 09/06~10/05	10 10 80
		1 週目 09/06~09/12	10 10 80
		2 週目 09/13~09/19	10 10 80
		3 ~ 4 週目 09/20~10/03	10 20 70
降水量	近畿地方	向こう1 か月 09/06~10/05	50 30 20
日照時間	近畿地方	向こう1 か月 09/06~10/05	10 30 60

低い(少ない) 平年並 高い(多い)

(2) 近畿地方 3 か月予報

近畿地方 3 か月予報 (09月~11月)			
2025年08月19日14時00分 大阪管区気象台 発表			
09月~11月	気温	平均気温は、高い確率6 0 %です。	
09月	天候	天気は数日の周期で変わるでしょう。	
	気温	気温は、高い確率7 0 %です。	
10月	天候	近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。	
	気温	気温は、高い確率6 0 %です。	
	降水量	降水量は、近畿太平洋側で平年並または多い確率ともに4 0 %です。	
11月	天候	近畿日本海側では、期間の前半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。	
	気温	気温は、平年並または高い確率ともに4 0 %です。	

気温、降水量の各階級の確率 (%)			
気温	近畿地方	09月~11月	10 30 60
		09月	10 20 70
		10月	10 30 60
		11月	20 40 40
降水量	近畿太平洋側	09月~11月	30 30 40
		09月	40 30 30
		10月	20 40 40
		11月	30 40 30
	近畿日本海側	09月~11月	30 40 30
		09月	40 30 30
		10月	30 30 40
		11月	30 40 30

低い(少ない) 平年並 高い(多い)

※気温・降水量・日照時間は低い・平年並・高い(少ない・平年並・多い)の3階級で予報されます。階級の幅は、平年値の作成期間(1991~2020年)における各階級の出現率が3%となるように決めてあります。

ホームページアドレス

- ・「兵庫県病虫害防除所（病虫害発生予察情報）」
<https://bo.jo.hyogo-nourinsuisangc.jp>
- ・「病虫害・雑草防除指導指針」
<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>
- ・「兵庫県総合防除計画」
<https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk09/sougouboujyo.html>
- ・「稲・麦・大豆作等指導指針」
https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11_000000107.html

問い合わせ先

本情報に関すること

- ・兵庫県農林水産部農産園芸課

TEL (078)341-7711(代表)

農産班:主作・機械担当 内線 79409

農産班:野菜担当 内線 79410

花き果樹班 内線 79411

技術内容に関すること

- ・兵庫県立農林水産技術総合センター

企画調整・経営支援部

TEL (0790)47-2435

農業技術センター 農産園芸部

TEL (0790)47-2410

農業技術センター 病虫害部

TEL (0790)47-1222

北部農業技術センター 農業・加工流通部

TEL (079)674-1230

淡路農業技術センター 農業部

TEL (0799)42-4880